

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-170

(P2017-170A)

(43) 公開日 平成29年1月5日(2017.1.5)

(51) Int.Cl.

A45D 33/00 (2006.01)

F I

A45D 33/00 650E
A45D 33/00 625A

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 8 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2015-113819 (P2015-113819)
 (22) 出願日 平成27年6月4日 (2015.6.4)
 (11) 特許番号 特許第6045641号 (P6045641)
 (45) 特許公報発行日 平成28年12月14日 (2016.12.14)

(71) 出願人 000001959
 株式会社 資生堂
 東京都中央区銀座7丁目5番5号
 (74) 代理人 100073184
 弁理士 柳田 征史
 (74) 代理人 100090468
 弁理士 佐久間 剛
 (72) 発明者 松浦 和司
 神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株
 式会社資生堂 リサーチセンター (新横浜
) 内
 (72) 発明者 渥美 憲
 静岡県掛川市長谷1120 株式会社資生
 堂 掛川工場内

最終頁に続く

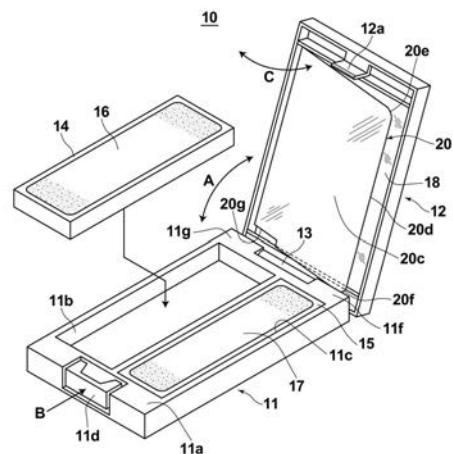
(54) 【発明の名称】化粧容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】化粧料で指や手が汚れることを起き難くし、また、保護シートを動かす操作を簡単に行うことが出来る、本体と鏡との間を仕切る保護シートを有する化粧容器を提供する。

【解決手段】化粧料16、17を収容する容器14、15を備えた本体11と、本体11を開閉可能に本体11に連結された蓋体12と、蓋体12の内面に取り付けられた鏡18と、本体11と鏡18との間を仕切る部分を有する保護シート20とを備えてなる化粧容器10において、保護シート20を、少なくとも一部が蓋体12と鏡18との間に固定された固定シート面と、この固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し、本体11を蓋体12で閉じたとき本体11と鏡18との間に位置する仕切りシート面20cとを有するものとする。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化粧料を収容する容器を備えた本体と、
前記本体を開閉可能に該本体に連結された蓋体と、
前記蓋体の内面に取り付けられた鏡と、
前記本体と前記鏡との間を仕切る部分を有する保護シートとを備えてなる化粧容器において、

前記保護シートが、少なくとも一部が前記蓋体と前記鏡との間に固定された固定シート面と、この固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し、前記本体を蓋体で閉じたとき該本体と前記鏡との間に位置する仕切りシート面とを有していることを特徴とする化粧容器。

10

【請求項 2】

前記保護シートが、前記固定シート面と前記仕切りシート面との間に、前記鏡の端面に沿って延びる中間面を有して、該保護シートの断面がコ字型をなしている請求項 1 記載の化粧容器。

【請求項 3】

前記固定シート面と前記仕切りシート面とが、前記鏡の左側において接続している請求項 1 または 2 記載の化粧容器。

【請求項 4】

前記保護シートの少なくとも前記仕切りシート面が、透明材料から形成されている請求項 1 から 3 いずれか 1 項記載の化粧容器。

20

【請求項 5】

前記仕切りシート面に情報が表示されている請求項 1 から 4 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【請求項 6】

前記情報が、前記仕切りシート面の 2 つの表面のうち、前記本体と前記鏡との間に仕切りシート面が位置したときに鏡側を向く方の表面に表示されている請求項 5 記載の化粧容器。

【請求項 7】

前記仕切りシート面が、外力を受けて、前記本体と前記鏡との間から外れた位置まで変形可能とされている請求項 1 から 6 いずれか 1 項記載の化粧容器。

30

【請求項 8】

前記仕切りシート面が概略四角形のものであり、該仕切りシート面の前記固定シート面に接続している側と反対側の端縁の 2 つの隅部のうち、少なくとも 1 つが面取り加工されている請求項 1 から 7 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【請求項 9】

前記仕切りシート面に、該仕切りシート面が固定シート面に対して折り曲げられるときに、前記本体に有る突出部との干渉を避ける切欠きが設けられている請求項 1 から 8 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【発明の詳細な説明】

40

【技術分野】

【0001】

本発明は化粧容器、特に詳細には、化粧料を収容する本体とこの本体を開閉する蓋体とを有し、蓋体の内面に鏡が取り付けられると共に、本体と鏡との間を仕切る保護シートが設けられてなる化粧容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、例えば特許文献 1 および 2 に記載されているように、上述のような本体、蓋体、鏡および保護シートを備えてなる化粧容器が公知となっている。その種の化粧容器においては、上記の保護シートが設けられていることにより、蓋体の内面に取り付けられた鏡が

50

、本体に收容されているファンデーション等の化粧料によって汚れることが防止される。

【0003】

また、上述のような従来の化粧容器においては、特許文献1にも記載されているように、保護シートの本体と鏡との間を仕切る部分に、化粧料や化粧容器の操作方法等に関する情報を表示しておくこともなされている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特許第4216619号公報

【特許文献2】特開2007-167341号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記の本体、蓋体、鏡および保護シートを備えてなる従来の化粧容器においては、多くの場合、保護シートの一部（固定面）が、化粧料を收容する中皿と本体との間で本体に固定され、その一部に接続する保護シートの他の部分（仕切り面）が、本体と鏡との間を仕切るように構成されている。しかし、そのように構成された従来の化粧容器には、下記の問題が認められている。

（1）保護シートの仕切り面を、本体と鏡との間を仕切る位置に設定する際、その操作を中皿の直ぐ上で行うことになるので、誤って指や手を、中皿内の化粧料で汚しやすい。

20

（2）本体を片手で持ったまま、保護シートの仕切り面を動かす操作をその片手だけで簡単に行うのが難しい。

（3）保護シートの仕切り面に情報が表示されている場合、その表示は鏡から離れた中皿近傍に位置するので、鏡を見ながら化粧をしている最中に情報を簡単に確認するのが難しい。

【0006】

本発明は上記の事情に鑑みてなされたものであり、化粧料で指や手を汚すことが起きにくく、そして、保護シートの仕切り面を動かす操作を片手で簡単に行うことができる化粧容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

30

【0007】

本発明による化粧容器は、
化粧料を收容する容器を備えた本体と、
本体を開閉可能に該本体に連結された蓋体と、
蓋体の内面に取り付けられた鏡と、
本体と鏡との間を仕切る部分を有する保護シートとを備えてなる化粧容器において、
保護シートが、少なくとも一部が蓋体と鏡との間に固定された固定シート面と、この固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し、本体を蓋体で閉じたとき該本体と鏡との間に位置する仕切りシート面とを有していることを特徴とするものである。

【0008】

40

なお、上記仕切りシート面が「固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し」という事項は、仕切りシート面が固定シート面に対して直接折り曲げ自在に接続している場合と、仕切りシート面が固定シート面に対して、他のシート面を介して間接的に直接折り曲げ自在に接続している場合の双方を含むものとする。

【0009】

上記2つの場合の后者の一例として、本発明の化粧容器において保護シートは、固定シート面と仕切りシート面との間に、鏡の端面に沿って延びる中間面を有して、該保護シートの断面がコ字型をなしていることが望ましい。

【0010】

また、本発明の化粧容器において、固定シート面と仕切りシート面とは、鏡の左側にお

50

いて接続していることが望ましい。なお、この場合の「左側」とは、化粧容器を使用する際に、一般的にそうであるように本体をほぼ水平な向きに保持し、開状態にある蓋体の鏡を本体の側から見るようにしたとき左側を意味する言うものとする。

【0011】

また、本発明の化粧容器において、保護シートの少なくとも仕切りシート面は、透明材料から形成されていることが望ましい。

【0012】

また、本発明の化粧容器において、仕切りシート面には情報が表示されていることが望ましい。

【0013】

そのような情報は、仕切りシート面の2つの表面のうち、本体と鏡との間に仕切りシート面が位置したときに鏡側を向く方の表面に表示されていることが望ましい。

【0014】

また、本発明の化粧容器において仕切りシート面は、外力を受けて、本体と鏡との間から外れた位置まで変形可能とされていることが望ましい。

【0015】

また、本発明の化粧容器において、仕切りシート面が概略四角形のものである場合は、該仕切りシート面の固定シート面に接続している側と反対側の端縁の2つの隅部のうち、少なくとも1つが面取り加工されていることが望ましい。

【0016】

さらに、本発明の化粧容器において仕切りシート面には、該仕切りシート面が固定シート面に対して折り曲げられるときに、本体に有る突出部との干渉を避ける切欠きが設けられていることが望ましい。

【発明の効果】

【0017】

本発明の化粧容器においては、保護シートが、少なくとも一部が蓋体と鏡との間に固定された固定シート面と、この固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し、本体を蓋体で閉じたとき該本体と鏡との間に位置する仕切りシート面とを有するものとされているので、従来装置と同様に仕切りシート面により、本体に収容されている化粧料によって鏡が汚れることが防止される。

【0018】

また、保護シートが上記の構成とされているので、保護シートの仕切りシート面を、本体と鏡との間を仕切る位置に設定する際、その操作は鏡の上で行われることになる。そうであれば、該操作を中皿の直ぐ上で行う場合と異なって、指や手を中皿内の化粧料で汚すことが起き難くなる。

【0019】

また、保護シートが上記の構成とされているので、本体を片手で持ったまま、保護シートの仕切りシート面を動かす操作をその片手だけで簡単に行えるようになる。その理由は、後に実施形態に即して詳しく説明する。

【0020】

さらに、保護シートが上記の構成とされているので、保護シートの仕切りシート面に情報が表示されている場合、その表示は鏡の近傍に位置することになる。そこで、鏡を見ながら化粧をしている最中に、その情報を簡単に確認可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】本発明の一実施形態による化粧容器を、一部分解して示す斜視図

【図2】図1の化粧容器に用いられる保護シートを示す斜視図

【図3】図2の保護シートを固定する構造を示す概略断面図

【図4】図1の化粧容器を使用している状態を示す斜視図

【図5】本発明の化粧容器に用いられる保護シートの別の例を示す斜視図

10

20

30

40

50

【図 6】図 5 の保護シートを固定する構造を示す概略断面図

【図 7】本発明の化粧容器に用いられる保護シートのさらに別の例を示す斜視図

【図 8】図 7 の保護シートを固定する構造を示す概略断面図

【図 9】本発明の化粧容器に用いられる保護シートのさらに別の例を示す斜視図

【発明を実施するための形態】

【0022】

以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。図 1 は、本発明の一実施形態による化粧容器 10 の斜視形状を示すものである。本実施形態の化粧容器 10 は、本体 11 と、この本体 11 を開閉可能にして該本体 11 に連結された蓋体 12 とを有している。本体 11 および蓋体 12 は共に、一例として合成樹脂等を用いて、外形形状が例えば概略薄い直方体状に形成されている。蓋体 12 は本体 11 に対して、ヒンジ 13 を介して図中の矢印 A 方向に揺動自在に連結されており、図示のように本体 11 の上方を開く開状態と、本体 11 の上方を閉じる閉状態とに設定され得るものとなっている。

【0023】

ここで、本発明の実施形態の説明における「上」、「下」、「左」、「右」および「手前」等の各方向は、化粧容器 10 を使用する際に、一般的にそうであるように本体 11 をほぼ水平な向きに保持し、開状態にある蓋体 12 の鏡 18 を本体 11 の側から見るようにしたときの各方向を言うものとする。

【0024】

本体 11 には、その上面 11 a から内側に凹状となった収容部 11 b および 11 c が設けられている。そしてそれらの収容部 11 b および 11 c には、それぞれ化粧料を収容する容器である中皿 14 および 15 が納められている。中皿 14、15 も例えば合成樹脂等から形成されたものであり、それらは各々収容部 11 b および 11 c に対して接着剤等によって固定されるか、あるいは固定せずに適宜取り出し可能とされる。

【0025】

中皿 14、15 には各々、化粧料 16、17 が収容されている。なお、化粧料 16、17 としてはファンデーション、口紅、アイシャドー等が挙げられるが、それらに限られるものではない。また、中皿 14、15 のいずれか、または双方を 2 つ以上の区画に分けて、各区画に互いに別の化粧料を収容させてもよい。また、収容部 11 b および 11 c の一方に、直接あるいは中皿を介して、化粧料塗布用のスポンジや刷毛等の化粧用具を収容させても構わない。

【0026】

さらには、中皿 14 あるいは 15 を用いずに、収容部 11 b および 11 c を容器として、それらに直接化粧料を収容させてもよい。本発明においては、そのように形成された本体 11 も、「化粧料を収容する容器を備えた本体」に含むものとする。

【0027】

なお、蓋体 12 の先端近傍には係合突起 12 a が形成されており、本体 11 の手前側の端部近傍には係合部 11 d が設けられている。蓋体 12 によって本体 11 の上面 11 a を閉じた際には、上記係合突起 12 a が係合部 11 d に係合して、この閉状態が維持される。また、係合部 11 d を例えばヒンジ 13 の側（矢印 B 方向）に押し込むと、上記係合状態が解除される。この状態になると、蓋体 12 を揺動させて本体 11 の上面 11 a を開放する開状態、つまり図 1 に示す状態に設定することができる。

【0028】

蓋体 12 の内面には、化粧の際に利用される鏡 18 が取り付けられている。この鏡 18 は蓋体 12 の形状に合わせて、一例として長方形に形成されている。さらに蓋体 12 には、保護シート 20 が固定されている。図 2 は、この保護シート 20 の斜視形状を示すものであり、また図 3 はこの保護シート 20 の固定構造を概略的に示すものである。以下、これらの図を参照して、保護シート 20 について詳しく説明する。

【0029】

図 2 に示される通り保護シート 20 は、互いに接続した 3 つの面、すなわち固定シート

10

20

30

40

50

面 20 a と、中間面 20 b と、仕切りシート面 20 c とを有して、断面がコ字型をなすものとされている。つまり仕切りシート面 20 c は、間に中間面 20 b を介して固定シート面 20 a に接続した形となっている。

【0030】

固定シート面 20 a は一例として外周縁が概略長方形とされている。仕切りシート面 20 c も一例として概略長方形とされているが、固定シート面 20 a に接続している側と反対側の端縁 20 d の 2 つの隅部 20 e および 20 f は、丸く面取り加工されている。また、仕切りシート面 20 c の下端縁（化粧容器 10 の使用状態において、下側に位置する端縁）には、中間面 20 b に近い位置において切欠き 20 g が設けられている。なお 2 つの隅部 20 e および 20 f は、丸く面取り加工する他、直線的に面取り加工されてもよい。

10

【0031】

上記形状の保護シート 20 は、例えば薄い透明の合成樹脂から形成されて、全体的に変形可能とされている。そこで、該保護シート 20 の仕切りシート面 20 c は、外力を作用させれば、中間面 20 b との折り曲げ部分を軸に図中矢印 C 方向に、変形しつつ揺動可能となっている。なお保護シート 20 は、上述のように透明材料から形成されれば、鏡 18 を視認しやすくする効果が得られるが、それに限らず、半透明や不透明の材料から形成されても構わない。

【0032】

保護シート 20 は、図 3 に示すようにして蓋体 12 に固定されている。なおこの図 3 は、保護シート 20 が固定された蓋体 12 の上下方向中央部分を、上方から見た断面を示している。また、この図 3 は概略的なものであって、そこに示す各要素の寸法は実際の寸法とは異なっている。図示の通り固定シート面 20 a は、接着層 30 によって蓋体 12 に接着することにより、該蓋体 12 の内面に固定されている。また鏡 18 は、接着層 31 によって固定シート面 20 a に接着、固定されている。なお必要に応じて、鏡 18 の端面と中間面 20 b とを、接着等によって固定しても構わない。

20

【0033】

ここで、接着層 30 や接着層 31 は、例えば接着剤の層とすることができるが、それに限らず、両面テープを用いて固定シート面 20 a を蓋体 12 に固定することも可能である。さらには、超音波接合等によって固定シート面 20 a を蓋体 12 に固定することもできる。

30

【0034】

以下、上記構成の化粧容器 10 の作用について、図 4 を参照して説明する。図 4 は、前述したようにして蓋体 12 が開位置に設定された状態を示している。化粧容器 10 を使用して化粧をする際に使用者は、まず図示の通り、例えば左手 M により本体 11 の部分を下側から保持し、蓋体 12 を開位置に設定する。このとき保護シート 20 の仕切りシート面 20 c は、図 1 に示す状態となっている。つまり蓋体 12 が閉位置にあるとき仕切りシート面 20 c は、本体 11 と鏡 18 との間に位置している。それにより、化粧料 16、17 によって鏡 18 が汚れることを防止できる。

【0035】

使用者は蓋体 12 を開位置に設定した後、図 1 に示す状態となっている仕切りシート面 20 c を、例えば左手 M の親指 P により端縁 20 d から捲って揺動させ、図 4 に示すように鏡 18 の前面を開放する位置まで押し拡げる。つまりこのとき仕切りシート面 20 c は、本体 11 と鏡 18 との間から外れた位置まで変形する。それにより使用者は鏡 18 を見ながら、化粧料 16 あるいは 17 を使い、また、前述したように収容部 11 b あるいは 11 c に化粧用具が収容されている場合はそれを用いて化粧をすることができる。

40

【0036】

なお、本実施形態において、仕切りシート面 20 c と中間面 20 b との折り曲げ部分（それら両者の接続部分）は、鏡 18 の左側に設定されている。そこで使用者は、化粧用具の操作に使わない方の左手 M で本体 11 を保持していれば、前述の通り左手 M の親指 P を使って、仕切りシート面 20 c を簡単に捲り操作することができる。ただし、上記折り曲

50

げ部分を鏡 18 の左側に設定することは必ずしも必要ではなく、鏡 18 の右側、上側、あるいは下側に設定しても構わない。特に上記折り曲げ部分を鏡 18 の右側に設定した場合は、その化粧容器を左利きの人に好適なものとして提供することができる。

【0037】

上記折り曲げ部分を鏡 18 のいずれの側に設定するにしても、固定シート面 20 a を鏡 18 の裏側に固定するのであれば、仕切りシート面 20 c を鏡 18 の直ぐ近くに配置可能となる。仕切りシート面 20 c には後述するように情報が表示されることがあるが、仕切りシート面 20 c が鏡 18 の直ぐ近くに配置されていれば、鏡 18 を見ながら化粧している際に、その情報を容易に見たり読んだりすることができる。

【0038】

また蓋体 12 を閉状態にする際には、仕切りシート面 20 c を鏡 18 に対面する位置に移動させてから閉操作をすることになるが、従来装置におけるように仕切りシート面 20 c を化粧料 16、17 と対面する位置に移動させる場合と異なって、誤って使用者の指や手を化粧料 16、17 で汚す可能性も低くなる。

【0039】

さらに、鏡 18 は一般に、中皿 14 や 15 と比べてかなり大きいものとなる。そのような鏡 18 の裏側に固定シート面 20 a を固定するのであれば、固定のための接着スペース、溶着スペース等を広く取ることができる。それにより、安定した保護シート 20 の接着が可能になる。

【0040】

また本実施形態においては、仕切りシート面 20 c の 2 つの隅部 20 e および 20 f が丸く面取り加工されているので、使用者の手、指を隅部 20 e および 20 f から保護する効果も得られる。なお、仕切りシート面 20 c の隅部 20 e および 20 f は、中間面 20 b との折り曲げ部分から最も遠い所に有るので、仕切りシート面 20 c を変形させたような場合は化粧料 16、17 に接触する可能性が高い。しかし、隅部 20 e および 20 f が面取り加工されていれば、そのような接触を回避して、仕切りシート面 20 c の汚れを防止する効果が得られる。

【0041】

なお、本実施形態において仕切りシート面 20 c は、外力が作用しなければ、鏡 18 に対して平行にはならず、該鏡 18 に対して若干の角度をなして浮いた状態を保つ。この角度は例えば 15 ~ 20 ° 程度である。また図 1 および図 4 に示す通り本体 11 においてヒンジ 13 の右側は、ヒンジ 13 よりも若干外方に突出した突出部 11 f となっている。図 4 に示す状態から、仕切りシート面 20 c を鏡 18 に軽く押し付けながら、蓋体 12 を閉方向に揺動させると、仕切りシート面 20 c の隅部 20 f に近い部分が上記突出部 11 f に掛かって、仕切りシート面 20 c の浮きが抑えられる。そして、そのまま蓋体 12 を閉位置に設定すれば、仕切りシート面 20 c が本体 11 と鏡 18 との間に位置する状態になる。

【0042】

その後、化粧容器 10 を使用するために蓋体 12 を開位置に揺動させても、仕切りシート面 20 c の隅部 20 f に近い部分が突出部 11 f に軽く掛かっている状態が維持される。この状態から、前述したように左手 M の親指 P を使って、仕切りシート面 20 c の端縁 20 d を捲る操作がなされるが、その際仕切りシート面 20 c の上記隅部 20 f に近い部分が弾性変形して、突出部 11 f から容易に外れるようになる。

【0043】

また、図 1 および図 4 に示す通り本体 11 においてヒンジ 13 の左側は、ヒンジ 13 よりも若干外方に突出した突出部 11 g となっている。それに対応させて仕切りシート面 20 c には、先に述べた通りの切欠き 20 g が設けられている。そこで、仕切りシート面 20 c を揺動操作する際、切欠き 20 g の中を突出部 11 g が相対移動するようになって、仕切りシート面 20 c が突出部 11 g と干渉することが回避される。

【0044】

ここで、保護シート20および鏡18を蓋体12に固定する構造の別の例について、図5および図6を参照して説明する。なお、これらの図において、既に説明したものと同等の要素には同番号を付してあり、それらについての説明は、特に必要の無い限り省略する(以下、同様)。本例では図5に示すように、保護シート20の固定シート面20aは、中央部に開口20hを有している。そして図6に示すように固定シート面20aは、開口20hの周囲部分を接着層30によって蓋体12に接着することにより、該蓋体12の内面に固定されている。また鏡18は、上記開口20hを通過させた接着層31によって蓋体12に接着、固定されている。またこの場合、保護シート20は蓋体12と、鏡18および接着層31によって固定されるため、接着層30は削除できる。

【0045】

以上説明した実施形態においては、仕切りシート面20cが中間面20bに対して折り曲げ自在に接続している。なお、このように、間に中間面20bが介在する場合でも、本発明では「仕切りシート面20cが固定シート面20aに対して折り曲げ自在に接続している」ということは、先に述べた通りである。

【0046】

本発明の化粧容器においてはそれに限らず、仕切りシート面20cが直接的に固定シート面20aに対して折り曲げ自在に接続する構成を採用することもできる。図7は、そのような構成とした保護シートの一例を示すものである。

【0047】

図7に示す保護シート120は、図2に示した保護シート20から中間面20bを取り除いた形に構成されている。この保護シート120は、例えば図8に示すようにして蓋体12に固定される。この保護シート120の固定構造は、中間面20bが無いことを除けば、図2に示した保護シート20の固定構造と基本的に同じである。

【0048】

次に図9を参照して、保護シートのさらに別の形態について説明する。図9に示す保護シート220は、仕切りシート面20cの一表面に情報201、202が表示されたものである。なお、本例における上記の「一表面」とは、仕切りシート面20cの2つの表面のうち、本体11と鏡18との間に仕切りシート面20cが位置したときに鏡側を向く方の表面である。

【0049】

上述の情報201は、例えば本体11(図1等参照)における化粧料や化粧用具の配置状態を図で示したものである。一方、情報202は、化粧料や化粧用具に関する説明や注意等を文字で示したものである。文字による情報202としてはその他に、例えば「保護シートを中に収めてから蓋をして下さい。」のような、化粧容器の操作に係る説明や注意が挙げられる。

【0050】

なお情報201、202は、仕切りシート面20cの他表面(つまり本体11と鏡18との間に仕切りシート面20cが位置したときに鏡と反対側を向く方の表面)に表示されても構わない。しかし、情報201、202を上述の一表面に表示させれば、仕切りシート面20cを鏡18に対面する位置から側方に揺動させて、鏡18を見ながら化粧している最中でも、情報201、202を容易に確認可能となる。また、情報201、202を上述の一表面に表示させた場合は、それらの情報201、202が化粧料16、17によって汚れる可能性も低くなる。

【符号の説明】

【0051】

- 10 化粧容器
- 11 本体
- 11a 本体の上面
- 11f、11g 本体の突出部
- 12 蓋体

10

20

30

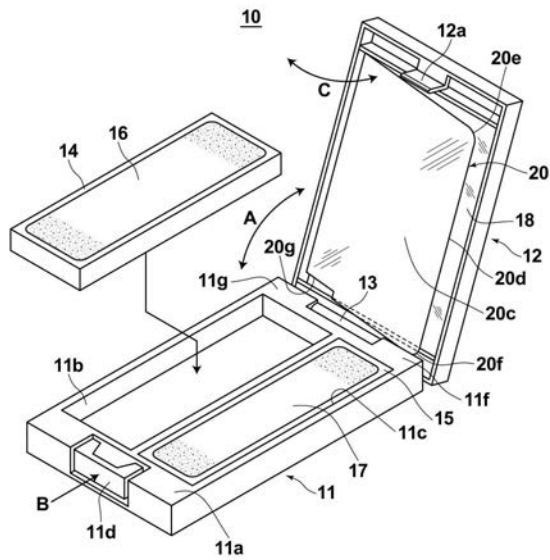
40

50

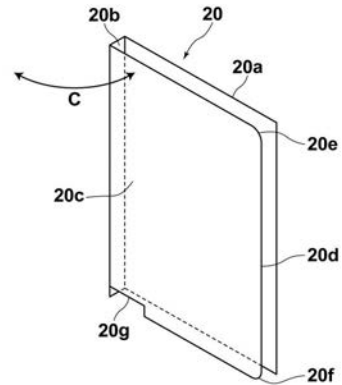
- 13 ヒンジ
 14、15 中皿
 16、17 化粧料
 18 鏡
 20、120、220 保護シート
 20a 保護シートの固定シート面
 20b 保護シートの中間面
 20c 保護シートの仕切りシート面
 20d 保護シートの端縁
 20e、20f 保護シートの隅部
 20g 保護シートの切欠き
 20h 保護シートの開口
 30、31 接着層
 201、202 情報
 M 左手
 P 親指

10

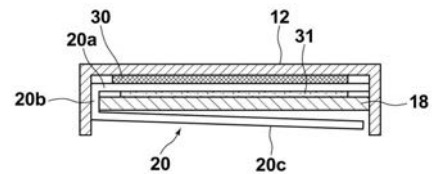
【図 1】



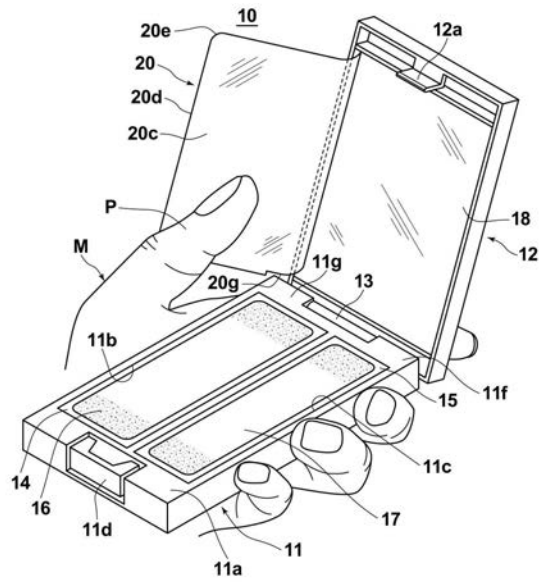
【図 2】



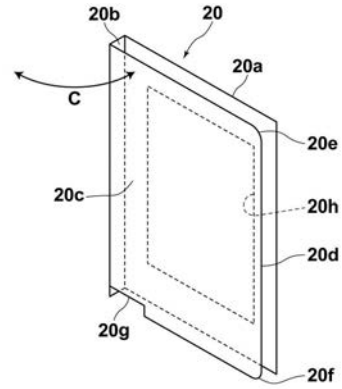
【図 3】



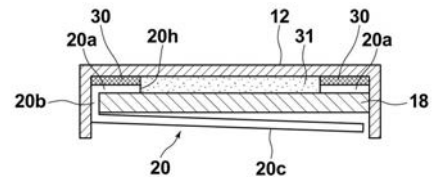
【図 4】



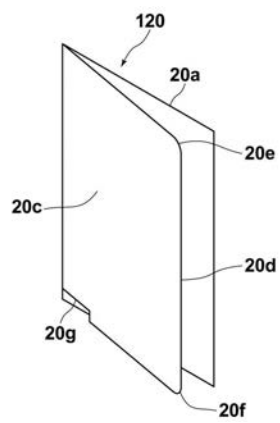
【図 5】



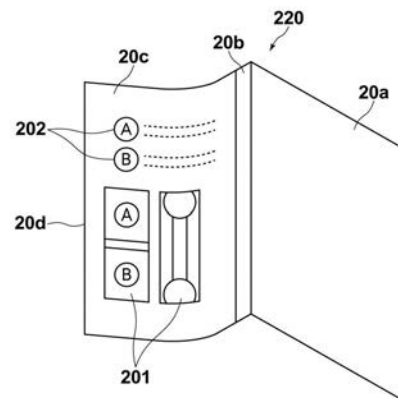
【図 6】



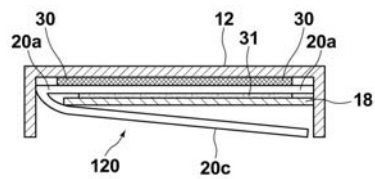
【図 7】



【図 9】



【図 8】



【手続補正書】

【提出日】平成28年9月20日(2016.9.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化粧料を収容する容器を備えた本体と、
前記本体を開閉可能に該本体に連結された蓋体と、
前記蓋体の内面に取り付けられた鏡と、
前記本体と前記鏡との間を仕切る部分を有する保護シートとを備えてなる化粧容器において、

前記保護シートが、少なくとも一部が前記蓋体と前記鏡との間に固定された固定シート面と、この固定シート面に対して折り曲げ自在に接続し、前記本体を蓋体で閉じたとき該本体と前記鏡との間に位置する仕切りシート面と、前記固定シート面と前記仕切りシート面との間において前記鏡の端面に沿って延びる中間面とを有して、該保護シートの断面がコ字型をなしていることを特徴とする化粧容器。

【請求項 2】

前記固定シート面と前記仕切りシート面とが、前記鏡の左側において接続している請求項 1 記載の化粧容器。

【請求項 3】

前記保護シートの少なくとも前記仕切りシート面が、透明材料から形成されている請求項 1 または 2 記載の化粧容器。

【請求項 4】

前記仕切りシート面に情報が表示されている請求項 1 から 3 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【請求項 5】

前記情報が、前記仕切りシート面の 2 つの表面のうち、前記本体と前記鏡との間に仕切りシート面が位置したときに鏡側を向く方の表面に表示されている請求項 4 記載の化粧容器。

【請求項 6】

前記仕切りシート面が、外力を受けて、前記本体と前記鏡との間から外れた位置まで変形可能とされている請求項 1 から 5 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【請求項 7】

前記仕切りシート面が概略四角形のものであり、該仕切りシート面の前記固定シート面に接続している側と反対側の端縁の 2 つの隅部のうち、少なくとも 1 つが面取り加工されている請求項 1 から 6 いずれか 1 項記載の化粧容器。

【請求項 8】

前記仕切りシート面に、該仕切りシート面が固定シート面に対して折り曲げられるときに、前記本体に有る突出部との干渉を避ける切欠きが設けられている請求項 1 から 7 いずれか 1 項記載の化粧容器。

フロントページの続き

(72)発明者 笠原 弘喜

静岡県掛川市長谷 1 1 2 0 株式会社資生堂 掛川工場内